

令和 6 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 1 月 2 0 日

江別市立大麻中学校

1 本年度の重点目標

夢や可能性に向かってたくましく生きる生徒の育成  
～自分で選び、自分で決めて発信する力をつける教育の推進～

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	育成を目指す3つの資質・能力 ○知識・技能 「次の学習に生かされる知識・技能」、○思考力・表現力・判断力「自分の思いや考えをわかりやすく伝える力」、○学びに向かう力・人間性 「仲間とともに学習や生活を楽しむ態度」を意識して教育活動を展開していくことができたか。	A	・「働き方改革」については、継続して低い評価となっているが、さらに進められるよう、新年度方針や経営プログラム等で示しつつ、各部、係、学年等においても働き方改革を意識した工夫をしている。	A	A
	生徒の努力や長所を認め、夢や可能性に向かってたくましく生きる生徒の育成に努めてきたか。	A	・報告、連絡、相談については、評価されている意見もある一方、真逆の意見もあり、数値的には低い状況である。	A	A
	学校経営の重点を理解し、教育目標の達成に向けた教育活動に主体的に関わったか。	A	その必要性を今一度確認し合い、よりしっかりと連携が図られるようにしていく。	A	A
	教育公務員としての職責の重大さを自覚し、職務規律の遵守に努めたか。	A	・事前に全体周知されるべきこと、職員会議等での協議が必要なことなど、さまざまな判断があるが、このことについても、提案内容の協議と合わせて、手順についても各学	A	A
	教職員のワークバランス（仕事と生活の調和）の視点を積極的に取り入れるなど、「働き方改革」をすすめたか。	B		A	A
	学年・分掌等で協力し、組織的に業務を遂行したか。	A		A	A
	職員間での報告・連絡・相談+確認がなされ、必要な情報が共有されていたか。	B		A	A

	校長や教頭との学校職員人事評価制度の面談や職員のモラル向上、メンタルヘルスへの対応に向けた相談は適切に行われたか。	B	年・分掌等で組織的に判断していく。 ・職員全員で、(今以上に)風通しの良い職場となるよう、全体で心がけていくことが大切である。 ・文書の tetoru 配信については、一部で進んでいる。中間評価での確認どおり、さまざまな懇談等の場で保護者のニーズや温度を受け、さらにできるところから進めていく。	A	A
	学校が保護者や地域に開かれ、各種たよりやHPを通じて情報発信を行ったか。	A		A	A
	PTA 活動や育成会等の活動を通し、家庭・地域との連携を図ったか。	B		A	A
	生徒指導や進路指導などで、高校との情報共有や、大学など校区にある教育機関との連携に取り組んだか。	A		A	A
	コミュニティ・スクールについて理解し、本校の教育活動が地域・保護者に理解され、協力しながら教育活動をすすめることができたか。	B		A	A
教育課程・学習指導	教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の年間指導計画を適切に作成し計画に基づいた指導及び評価の工夫改善を進めたか。(カリキュラム・マネジメントの充実)	A	・「道徳教育」については、学年内で内容や進め方、生徒の反応などを交流していくことが大切。 ・道徳教育の指導力向上のため、教務部と研究部が連携しながら研修の機会を設ける。 ・「家庭学習」に関しては、家庭学習に取り組めていない生徒が多く、不安に感じている家庭もあるので、授業や委員会活動などで対応する。 ・朝読書については、生徒の実態を考えると、今後も朝読書のねらいを踏まえて学校全体で指導していく。 ・朝の会や授業に落ち着いて参加できる環境を整えることを大切にしていく。	A	A
	朝読書や読書啓発を通じて、豊かな心を育てる読書活動の充実に努めたか。	B		A	A
	総合的な学習の時間の計画に基づいて、地域や社会と積極的に関わる体験活動を行い、学習の成果を効果的に発信したか。	A		A	A
	キャリア教育の視点から各教育活動の中で、生き方や正しい職業観を身につけさせる指導に努めたか。	A		A	A
	教材研究を十分に行い、工夫した教科指導を実践したか。	A		A	A
	評価規準をもとに、明確な評価方法で適切な学習評価をしたか。	A		A	A
	少人数指導および TT、習熟度別による授業を適切に行い、成果を上げたか。	B		A	A
	身に付けさせたい3つの資質・能力を意識し教科指導を実践できたか。	A		A	A
	効果的な展示や掲示を工夫し、潤いのある環境づくりに努めたか。	A		A	A

(道徳教育) 特別の教科「道徳」の授業交流や公開を行い、豊かな心を育てる道徳指導の充実に取り組んだか。	B	<p>・「総合的な学習の時間」について、大麻中学校の身につけさせたい力を考え、系統立てた教育活動が行えるように計画していく。</p> <p>・特別支援に関しては、今後関係機関との連携が必要。また、対応方法について知識や経験を増やしていく必要がある。</p> <p>・授業アイデア(校内研修)について、次年度も先進的にICTに取り組まれている授業実践を紹介していく。</p> <p>・熱中症対策について、次年度6月頃に養護教諭からの講習を設定する。</p>	A	A
(道徳教育) 道徳の教科書等を活用したり、外部講師による話を聞き、心に響く多様な指導を工夫したか。	B		A	A
(道徳教育) 道徳教育の中で、自他を大切に、互いに認め支え合う人権教育を推進したか。	B		A	A
(特別支援) 校内支援委員会(サポートミーティング)は効果的に機能していたか。	A		A	A
(特別支援) 保護者や関係機関との連携は円滑に行ったか。	A		A	A
(特別支援) 教職員の研修や情報交流を適切に行ったか。	A		A	A
指導方法や学習形態を工夫し、基礎・基本の確実な定着を図ったか。	A		A	A
「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めたか。	A		A	A
ICTを活用した授業改善を進めたか。	A		A	A
教育活動の様々な場面で、コミュニケーション能力や表現力を高めるように工夫して指導したか。	A		A	A
家庭での学習習慣を定着させるように指導したか。	B		A	A
放課後や休業中に補充的な学習支援等を行い、生徒の学力向上に努めたか。	B		A	A
(研修活動) 研究主題に基づき、一人一公開授業等、実践的指導力の向上に取り組んだか。	A		A	A
(研修活動) 授業力向上のために教科部会等を活用し研修の充実に取り組んだか。	A		A	A
連絡・報告・相談+確認を徹底し、職員全体で生徒指導に取り組む体制となっていたか。	B	<p>・学校生活のルールや基準については、生徒指導部会にて検討するというプロセスに沿ってクリアしていく。</p>	A	A
いじめの未然防止や早期発見に取り組み、適切に対処したか。	A		A	A

生徒指導	不登校傾向の生徒・保護者の心に寄り添い、適切に対応したか。	A	<p>・小さな気づきを学校全体で共有することが、学校全体として調和のとれた生徒の行動につながる。</p> <p>・部活動指導について、江別市で定めている「平日 2 時間の活動」という基本を順守することが必要。</p> <p>・いじめ防止基本方針に則った「いじめ防止対策委員会」を進める。</p> <p>・昨年度改訂されたばかりの本校方針を改めて職員全体で共有する。</p> <p>・学校生活の中において、子どもたちの心に残るシーンは決して大きな行事だけではない。様々な場面で学びが成長のきっかけになるという視点を大切にしていく。</p>	A	A
	生徒理解のもと、集団生活の規律や安全に対する習慣形成に取り組んだか。	A		A	A
	保護者や地域社会、関係機関と連携し、問題行動を未然に防ぐ取組を実施したか。	A		A	A
	「えべつスマート 4RULES」の取組を進め、携帯電話やインターネットに関する正しい使い方など、情報モラル教育の充実に努めたか。	B		A	A
	生徒会・学年・学級が連動する委員会活動を行い、生徒の創意を生かし、充実感や所属感を高める活動に取り組んだか。	A		A	A
	(健康安全教育) 災害や交通事故に対する指導とともに、危機回避能力を身につけさせる指導を工夫したか。	B		A	A
	(健康安全教育) 薬物乱用、喫煙防止等に関する指導を行い、健康に対する実践的な態度を養ったか。	B		A	A
	(部活動) 切磋琢磨し、所属感や目標達成に努力する態度を育む部活動が保護者の理解を得て運営されたか。	A		A	A
	(部活動) 北海道アクションプランの部活動時間や休養日を適切に設定することができたか。	B		A	A
事務・教育環境	施設・設備の安全・維持管理のための点検や整備に取り組んだか。	A	<p>・環境整備の取り組みは今後も継続して取り組んでいくものである。</p> <p>・デジタル採点の印刷については、これまでのセレゾナの印刷ルール（印刷は A 3 のみ）を守っていく。</p>	A	A
	校舎内外の清掃を徹底し、清潔な教育環境を創りだしたか。	A		A	A
	年間指導計画に基づいて食育指導を行うとともに、指導法や教材開発の工夫改善に努めたか。	B		A	A
	課題に対応した効果的な予算編成が計画され、職員の理解のもと、執行が進められたか。	B		A	A
	諸事務は適切にすすめられ、制度の周知に基づくコンプライアンスの確立に寄与できたか。	A		A	A
	子どもの貧困対策としての就学保障制度の理解を進めることができたか。	A		A	A

小 中 一 貫 教 育	各々が組織的に校区小（中）学校と連携しながら小中一貫教育を進めているか。	A	・小学校との連携を深め、しっかりと整理ができるよう にしていく。 ・各校でしっかりとした共通理解・認識を持ち、話し合いや活動を進めていく。	A	A
	生徒が「生活の8箇条」、「学習の7箇条」を身につけられるよう指導しているか。	B		A	A
	新入生が環境の変化に柔軟に適應するような取り組みができていますか。	A		A	A
学 年 経 営	学校の教育目標、学年目標、生徒に身に付けさせたい3つの資質・能力を意識し、その実現に向けて実践したか。	A	・支援が必要な生徒が多い。生徒の成長に繋がる支援をしていく。生徒の将来を見通した上で学校として対応する。 ・今後も気軽に情報共有できる場を設けていく。 ・毎日の学習について、委員会活動と協力しながら習慣化させるような取組を行っていく。	A	A
	学年部会は適切に開催されたか。	A		A	A
	学年の業務分担に基づいて相互の連携・協力のもと業務を遂行したか。	A		A	A
	学年で意思統一して全員で生徒の指導にあたったか。	A		A	A
	学年行事・集会は、学年委員会組織を生かし、有効かつ適切に実施したか。	A		A	A
	特別な支援を必要とする生徒を把握し、適切な支援・指導を行ったか。	A		A	A
<p>【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】</p> <p>○報告・連絡・相談の評価がBだが、解消しなければならない点などが明らかになったからこそ評価が低いとも言えるので、むしろいいことなのではないか。</p> <p>○家庭学習の生徒評価が低いのは、塾などでの学習は家庭学習に含まないで評価しているからではないか。学校以外での学習はすべて家庭学習と捉えたらいい。</p> <p>○「家庭学習」から「授業外学習」へと名称変更をしたらどうか。</p> <p>○小学校では、宿題と家庭学習を分けて捉えているので、その影響があるのかもしれない。</p> <p>○ペーパーレスについて、すべてをペーパーレス化してしまうのは違うのではないかと感じる。</p>					

【評点】 A：よい      B：おおむねよい      C：ややよくない      D：よくない